

## 【図画工作科】教科提案

感じる かかわる 「伝え合って」つながる 楽しい図画工作  
～多様な素材体験を積み重ねて～

### 1. 研究テーマ設定の理由

#### (1) 学校提案とかかわって

図画工作科は、2年間「3つの対話」でせまる造形的な表現活動（多様な素材体験を積み重ねて）を教科提案として取り組んだ。素材に継続的かつ多様なかかわりをもつことが素材への認識力を高めることや、自然素材の心地よさが言語化を促すこと、対話による鑑賞で自分の感性をはたらかせることや、感じたこと想像したこと考えたことに自信をもち交流できるなどの成果があった。また、でき上がりを予想したり、「見せる」ことを意識したりすることで「見え方」を想像し、能動的に「見せよう」とする「他者とのかかわり」が、表現意欲を高めるのではないかという仮説を得た。

図画工作科は、造形的な表現活動を通してつくりだす喜びを感じながら、思いや体験に、自分のイメージをもち、色・形を組み合わせることで表現し、情操を養うことを目的とする教科である。

本校の「学びをデザインする子どもたち」の今年度のサブテーマは「課題意識の深化を通して」である。図画工作科においては、素材や題材、表現手段である色・形への認識力の深まり、材料などに基づいた発想や構想の能力の高まりが、どのように自己の表現に生かされるようになるのかだと考えた。

色・形への認識力を高めるため、表現活動の際、「見せる」「見せ合う」活動を多く取り入れ、「見え方」を意識したり、友だちの色・形のとらえ方に触れたりさせる。また、対話による鑑賞を取り入れ、これらの活動によって色・形その構成など造形的な感覚を育てたい。

#### (2) 図画工作科がめざす子ども像

学習指導要領では図画工作科の目標を次のように定めている。

「表現及び鑑賞の活動を通して、感性を働かせながら、つくりだす喜びを味わうようにするとともに、造形的な創造活動の基礎的な能力を培い、豊かな情操を養う。」

今回の指導要領で加えられた「感性を働かせながら」について、学習指導要領解説によると「感性」とは、「様々な対象や事象に心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性をはぐくむ重要なもの」であり、「これを手掛かりに児童は発想をしたり、技能を活用したりしながら、自他や社会と交流したり、主体的に表現したり、よさや美しさを感じ取ったりしている」とある。石器時代の昔から、人は絵をかき、道具を工夫してきた。また小さい頃から身近な素材に働きかけ、紙に線を書いて意味付けたり、物を積み上げて形を構成したりする行為を重ねて成長する。つまり、表現することは人がもともと持っている欲求であり、能力であるということが出来る。もちろんそれだけではないが、人は、造形的な表現活動を通して人間らしい感情を育てていく。

図画工作の表現手段である色・形を手がかりに、ものや体験を読み解こうとする（感じる）時、一人ひとりの感性の違いが感じ方や表現の思いの違いにつながる。そのちがいを交流することや、

友だちの表現から受ける「感じ」を、自分の感じ方や見方、考えとかかわらせたい。

造形的な表現活動の基礎的な能力を身につけさせ、生活や社会に主体的にかかわろうとする態度を育て、豊かな感情を育てるため、図画工作科でめざす子ども像を以下のように考える。

- 造形的な表現活動の基礎的な能力を身に付けた子
- 表現や鑑賞活動を通して、生活や社会に主体的にかかわろうとする子
- 自らつくり出す喜びを感じる子

## 2. 図画工作科における「学びをデザインする子どもたち」

### (1) 図画工作科における課題意識の深化のレベル

本校の学校提案は「学びをデザインする子どもたち—課題意識の深化を通して—」である。

図画工作科における課題意識の深化を次のように考えた。

低学年	中学年	高学年
身近な物を色や形を基に思い付いて作ったり、造形遊びをしたり友だちの作品を見たりして、好きな色や形を基に自分なりのイメージをもつ。	身近な材料や場所を基に作りたいものを作り、友だちと話し合ったり見せ合ったりして色や形を基に自分のイメージをもつ。	材料や場所などに進んでかかわり、特徴を基に工夫したり、構成したりして、自分の感覚や活動を基に、色や形、構成の効果など造形的な特徴をとらえる。

鑑賞の授業の一場面を示す。作品は、コロ作「突風」である。授業の主張点は「作品について話し合うことで、自分の考えや感じ方に自信を持ち、より作品のよさや美しさに気づくことができるのではないか」である。

C: 雲が雨かな? 晴々しているから、心も晴れ晴れ。

灰色から、黄色、オレンジ。

C: 反対!

T: どういう心?

C: がんばろう!

T: 他には? けん君のがんばろうとおなじだと思ったのは?

【1人】

T: ちがう意見は?

C: 逆に、この雲がくもってきて、旅人の心が折れてきた。

T: 心が折れてきていると思ったのは?

【たくさんの人数】

C: 空が夕方。

T: どうして?

C: 空が黄色くて明るいから夕方。心は関係ない。

T: 共通しているのは、黄色は晴れているってこと? くもっているのは、灰色から?



図1 突風

心が折れておいるのは、色をみたらどれが感じられるということ？どんな色？

C：黄色→希望の光

はじめは、描かれている人物の持ち物が何なのかや、描かれているもの一つ一つが何なのかに注目していた。話し合いを続けているうちに、次第に描かれている人物の心情を、使われている色で想像したり、いやそうではなく風景は背景であり、心情とは違うと主張したりするなど、色のもつ効果などに注目するようになった。

フロマンタン作「ナイルの渡し舟を待ちながら」でも、初めは何が描かれているかに注目していたが、次第に描かれている3人の人物の視線の先に全員の思いが集まっていき、海、あるいは河らしき先には街があるのではないかと、船を眺めているのではないかとといった想像の話し合いから、3人の男達が船を待っているのではないかと考えるに至った。話し合いの後書いたワークシートには、ラクダに乗っているのはお金持ちの主人で、立っている人と座っているのは、使用人だという考えもあった。

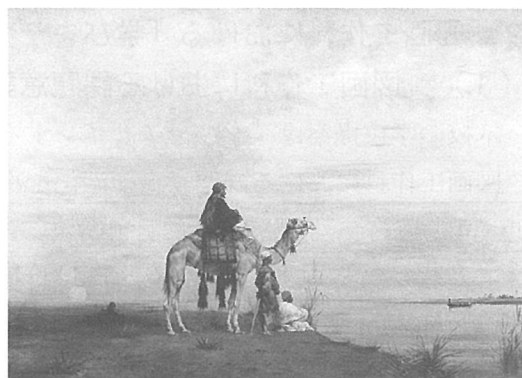


図2 ナイルの渡し舟を待ちながら

描かれている人物の動作化などを取り入れたり、敢えて自分が考えたのはちがう設定で想像させたりすると、さらに想像を広げる様になるのではないかと考える。

## (2) 図画工作科におけるみとりと支援

表現活動では、過程を大切にし、工夫やつまづきに注目していく。また、制作の途中に3～4人の小グループあるいは全体で、表現したものをもとに話したり、発表したりする場を保障し、子どもたちが互いに評価し合い、自分の感性と友だちの感性を比べられるようにする。見せ合う活動を通して変容をみとっていくようにする。

鑑賞活動では、他教科との関連を考えたり、地元の作家の作品を選んだり、多様な場面設定ができたり、動作化ができたりと、子どもたちが楽しくかかわることのできる作品を選び、小グループや全体での話し合いやワークシートなどを活用し、自分の感性に自信が持てるように支援する。

## 3. 研究の展望

### ・感じる かかわる 「伝え合って」つながる

感じたこと、考えたこと、伝えたいことなどを表すとき、素材や題材、道具にいっぱいかかわることは素材などへの認識力を高め、道具の扱いに慣れることができる。

自分らしい表現を追求していくことは、「見え方」を予想し「見せ方」を工夫することと両輪である。そのためには相手にどのように見えているのかを知る必要がある。「どんな感じかな」と感じたことを図画工作科の表現手段である色と形を構成して表現するとき、友だちの表現を見たり、美術作品を鑑賞して、自分との感性のちがいや似ていることに気付いたり、相手にどう見えてい

るのかを意識したりすることで、多様な見方が育ち、「色」「形」「その構成」への認識力が高まると考えた。

#### ・多様な素材体験

図画工作科は、「表す」活動の過程で表現対象である経験を迫体験したり、ものに主体的にかかわったりする活動によって対象や、表現手段である色・形、素材への認識力を高める。

人間の進化の過程には、手や道具を使っての自然素材への主体的な関わりが欠かせない。

しかし、生活環境の変化により、自然素材に関わる機会は少なくなった。そこで、基本的な自然素材である草木、土や石に紙などを加え、これらを手や道具を使って加工する多様な機会をもつことを大切に取り組み。その素材で何を制作するかを急ぐよりも、素材の感覚を手や体で感じさせたい。造形遊びの活動の中から仲間との対話が生まれ、自然に何かを制作しようという動きが出てくる。このような素材体験の機会を多く持つとともに、一つの素材にじっくり時間をかけて取り組む機会も持たせたい。

### 4. 研究の評価

#### ・感じる かかわる 「伝え合って」つながる 楽しい図画工作

対話による鑑賞や、絵を演じる活動、制作の途中での「見せ合い」をすることで、「見ること」「見られること」への抵抗感が少なくなった。また、「見え方」を意識して表現を工夫し、友だちとアイデアを交流しながら表現するようになった。「色」「形」への認識力の高まりにつながったかについては、対話の鑑賞で友だちと注目しているところを交流したり、絵を演じたりする活動で、作品の表現を精緻に見て考えるようになった。ワークシートを活用し、友だちの表現への評価や自己評価に取り組んだことも、見え方を意識した表現へと結びついた。

今後は、表現の中に鑑賞を取り入れたり、鑑賞を深める方法の一つとして演技などの表現を取り入れたりして、鑑賞と表現の一体化を進めていきたい。

#### ・多様な素材体験について

今年度は、木・紙・土・金属・プラスチックなどの素材を扱った。鑑賞では、油彩、水彩、版画、絵巻物を扱った。素材によって表現には特徴があり、それらの発見や気づきが多かった。また、気づきを表現する言葉が多様になることは、感覚や情操を養うことにつながったのではないかと考える。